

事例14

< 事例概要 >

- ・ 50 歳代、高血圧、脂質異常症、高尿酸血症、睡眠時無呼吸症候群（SAS）疑いの患者。BMI 32.1 kg/m²。
- ・ 約 2 年の病歴を有する持続性心房細動に対し、クライオバルーンカテーテルを使用しアブレーションを実施。
- ・ 局所麻酔薬投与後、非侵襲的陽圧換気療法（NPPV）を開始し鎮静薬を投与した。クライオシースにクライオバルーンカテーテルを挿入する際に、大きな吸気相が重なり、シース内に空気が引き込まれた。バルーンカテーテルから空気を吸引したが、心電図でST上昇を認めた。冠動脈造影で上行大動脈と冠動脈に空気混入を認め、空気吸引を実施したが心停止となった。経皮的心肺補助（PCPS）、一時的ペースメーカー挿入を実施したが、治療約1 か月後に死亡した。
- ・ 死因は、空気塞栓。解剖有、死亡時画像診断（Ai）無。